



認知症の方を地域で支えよう

認知症は、脳の細胞が死んでしまったり働きが悪くなったり、記憶力が低下したりなどして、様々な生活の場面で支障が起こってくる病気です。周囲の理解や温かい対応、地域全体で支えることで住み慣れた自宅で安心して暮らすことができます。

知っていますか？

接し方のポイントは、3つの「ない」

1. 驚かせない

認知症の方は、自分自身が記憶を失っていくことや、次に何が起こるか分からないという漠然とした不安でいっぱいです。

声をかける場合は、まずは温かい心で、後ろからでなく、本人の視野に入る所から「どうしましたか？」と優しく話しかけてください。複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ一人で声をかけます。

2. 急がせない

認知症の方は急がされるのが苦手。いくつもの問いに答えることも苦手です。相手の反応を見ながら、同じ目の高さで、ゆっくり、はっきり、大きめの声でひとつずつ会話をしましょう。

3. 自尊心を傷つけない

最も大切なことです。人としての付き合い方の基本は同じです。認知症になっても、その方の人生を取り巻く家族や友人関係、社会的役割など大切にしたいものへの思いは残っています。家族や友人、医療機関、介護関係者がみんな、相手の立場を尊重して接することが大切です。



万が一の場合、徘徊^{はいかい}の方に対しては 地域^{はいかい}のみんなであたたかく対応しましょう

認知症の方の中には、自分がまだ現役だと思って仕事に行こうとしたり、自宅にいるのに「家に帰る」と言って出て行ったりする徘徊^{はいかい}の症状が現れる場合があります。

次のような方を見かけたら、認知症の方で徘徊^{はいかい}の症状がもしかれません。

季節にあわない服装をしている。(真冬に上着を着ていない、短靴やサンダル、素足である等)

持ち物や衣服に名札がついている。自分の名前や住所が言えない。

話していることがあいまいで、不安そうで落ち着かない様子でいる。

心配な方を見かけたら、やさしく声をかけましょう。家族などの連絡先がわからない場合は110番を、万が一具合が悪そうな時は119番して救急車を呼んでください。家族や警察が来るまでは、そばで見守ってあげましょう。

>>>羽幌町はいかい高齢者等SOSネットワークの事前登録<<<

徘徊^{はいかい}の心配がある方は、万が一の際に迅速に対応するため、事前に町に登録しておくことができます。詳しくは地域包括支援センターまでお問い合わせください。